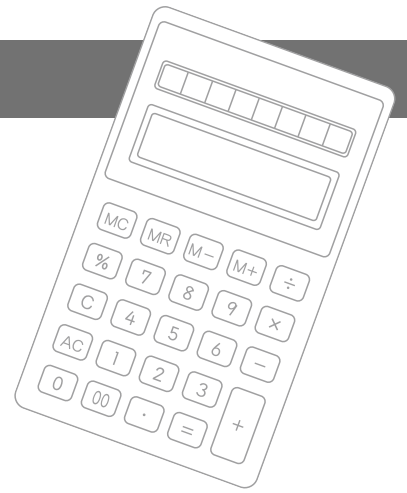


# ふじみ野市の家計（財政状況）



原則として、普通会計（国の基準に従ったもので、国民健康保険などの特別会計分を除く）の数値です。

なお、家庭に置き換えた例などは、正確性よりも見やすさ、わかりやすさを優先してつくってあります。

タウンミーティング

ふじみ野市の1年間の収支の状況を家庭にたとえると、次のようになります。

## 家庭に置き換えた決算の状況（平成20年度決算）

### 【収入】

※金額は1万分の1に置き換えています。

### 【支出】

家庭での種別	市の歳入項目	金額(千円)	構成比(%)
給料	市税	1,579	53.8
パート収入	使用料、手数料、分担金及び負担金など	154	5.3
貯金の取り崩し	繰入金	85	2.9
親からの支援	地方交付税、各種交付金	780	26.6
銀行借り入れ	市債	244	8.3
前年度の残り	繰越金	91	3.1
合計		2,933	100.0

家庭での種別	市の歳出項目	金額(千円)	構成比(%)
食費	人件費	613	21.5
食費以外の生活費	物件費、維持補修費	524	18.3
医療費	扶助費	479	16.8
子どもへの仕送り	他会計繰出金、貸付金、補助費など	640	22.4
貯金	積立金	7	0.2
自宅の増改築、家電購入	普通建設事業費	327	11.4
住宅ローン返済	公債費	268	9.4
合計		2,858	100.0

貯蓄残高	185
------	-----

年収（給料+パート収入）の約1割

住宅ローン残高	2,466
---------	-------

年収（給料+パート収入）の約1.4倍

説明します



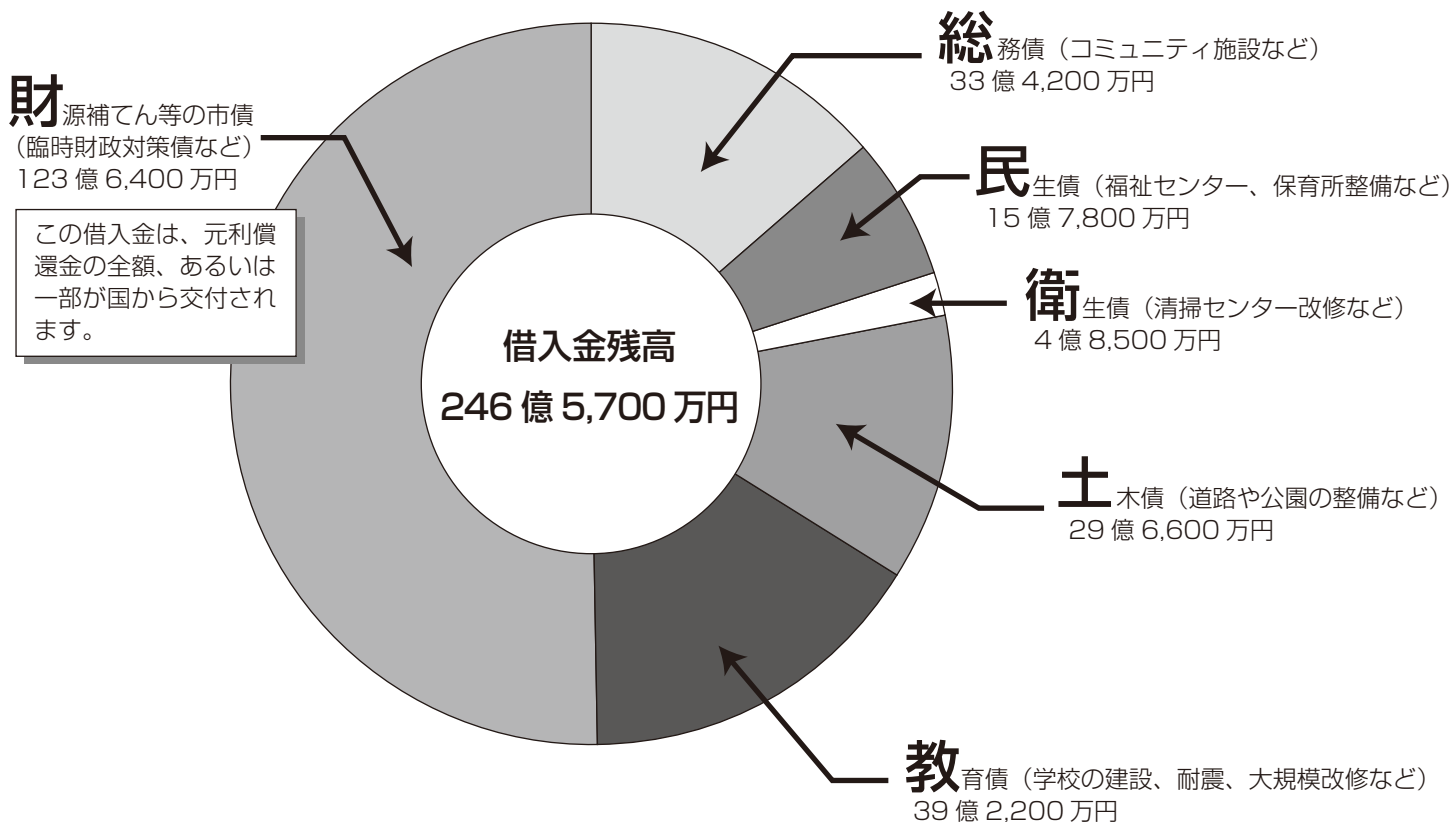
収入の合計(2,933千円)から支出の合計(2,858千円)を引くと、75千円収入のほうが多かったという計算になります。ですが、

もしも「前年度の残り(繰越金)」の91千円がなかったら…

逆にマイナス16千円の赤字になります。さらに「貯金の取り崩し(繰入金)」もありますので、厳しい状況だということになります。このような状態が、数年続いています。

# 実際の市の状況は？

## 借金の借り入れ状況（平成21年度末）



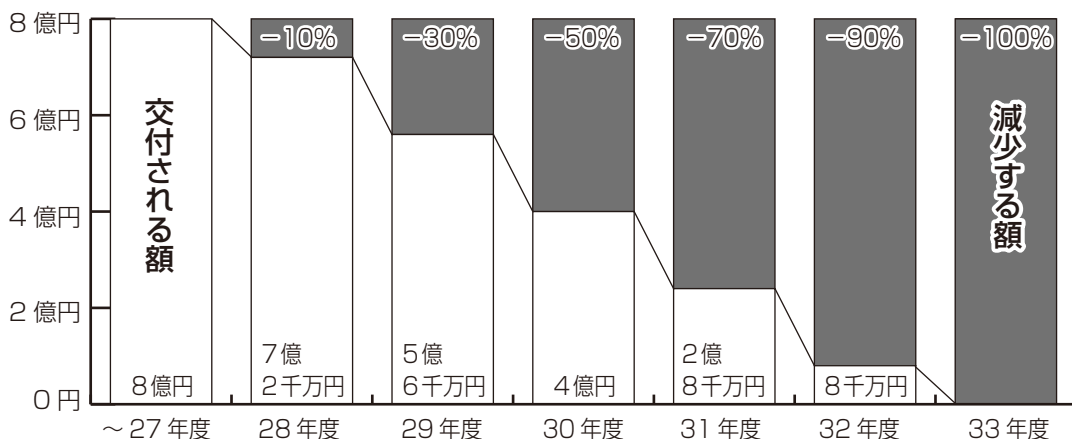
## 国からの援助が確実に減る

説明します

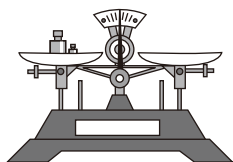
平成17年10月に合併して誕生した「ふじみ野市」は、平成18年度から平成27年度までの10年間、国から交付される地方交付税（家計に例えると「親からの支援」）について、特例措置が受けられることになっていて、その額は毎年度およそ8億円となっています。



でも、平成28年度からはこの特例措置が、だんだんに減っていき、平成33年度にはなくなってしまいます。



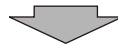
地方交付税の合併による特例措置の将来減少額（現在の影響額8億円で試算）



## 14 市民のためにやらなければならないことはたくさんあります

地方交付税の金額が段階的に減少するうえに、景気の低迷や雇用情勢の悪化などの影響で、市税の減少が心配されます。

このような状況の中、まだまだ対応しなければならないことがたくさんあります。



「扶助費（生活保護費など、社会保障制度の一環として生活困きゅう者等の生活維持を図る目的の経費）」の増大 → 平成22年度予算で約67億8千万円(全体予算の2割強)



国民健康保険をはじめとした特別会計への多額の繰出金



広域ごみ処理施設の建設



学校の耐震化や大規模改修



中学生までの医療費無料化



老朽化した公共施設の改修



道路の維持補修

などなど…。まだまだいくつもの懸案事項があります。

## 15 市が行っていること、そして行おうとしていること

説明します

市では、以上のような厳しい財政状況に対処するため、合併後に次のようなことを行っています。

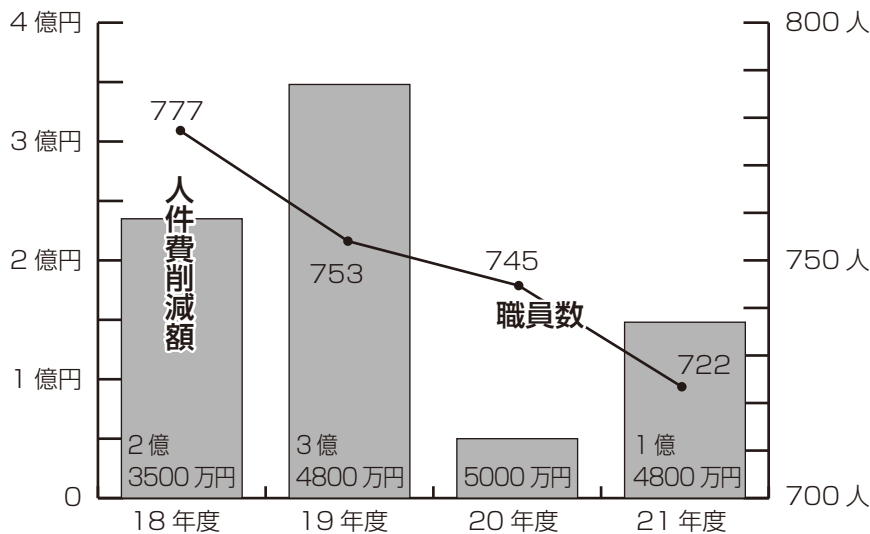
### ●人件費の削減（新規採用人数の抑制、期末・勤勉手当の削減など）

合併後の4年間で約7億8,100万円を削減

※職員数では合併時807人から85人を削減

### ●事業評価や事務事業の見直し

### ●事業仕分けや公共施設の適正配置計画の策定



人件費の18年度～20年度は決算額で、21年度は見込額です。職員数は、それぞれの当初予算時の数字です。

ふじみ野市の人件費削減額及び職員数の状況

